

10,634.016

11.03.2003

Japanese Examined Utility Model Publication No. 53-42903

Published on October 16, 1978

Title

Detachable antiglare mirror apparatus

Scope of Claim

A detachable antiglare mirror apparatus characterized in that a frame 9 is protrudingly disposed on a rear face center part of a mirror housing and a base plate 5 is rotatably connected to the frame 9, to construct a visual range angle switching mechanism, and thereafter, fixing claws 11, 11' are protrudingly disposed on an upper edge of the base plate 5 and guide grooves 12, 12' are formed on inner surfaces of both side walls of the base plate 5, to fit a movable plate 13 slidably in the guide grooves 12, 12', and also nipping claws 15, 15' are protrudingly disposed on a lower edge of the base plate 5, to provide the movable plate with a force for always rising.

実用新案公報

昭53-42903

⑪Int.Cl.²

識別記号 ⑫日本分類

庁内整理番号

⑬公告 昭和53年(1978)10月16日

B 60 R 1/04//
B 60 R 1/08
G 02 B 5/0880 K 3
104 A 2216221-36
7244-23

(全2頁)

1

2

⑭着脱式防眩ミラー装置

⑮実 願 昭50-179033

⑯出 願 昭50(1975)12月27日

公 開 昭52-90850

⑰昭52(1977)7月7日

⑱考 案 者 西沢敏明

藤枝市下青島1625の7

⑲出 願 人 株式会社村上開明堂

静岡市宮本町12の25

⑳実用新案登録請求の範囲

ミラーハウジングの背面中央部に枠体9を突設し、これに基板5を回動自在に連結して視界角度の切換機構を構成した後写鏡に於いて、基板5の上縁に固定爪11, 11'を突設し、該基板5の両側壁の内面に案内溝12, 12'を削成して、これに可動板13を摺動自在に嵌合すると共に、その下縁に挟圧爪15, 15'を突設し、該可動板には常に上昇しようとする力を付与したことを特徴とする着脱式防眩ミラー装置。

考案の詳細な説明

本考案は、既設の大小諸種の標準型室内後写鏡に、着脱自在に重合できる反射率の昼夜切換式防眩ミラーに係るものである。

従来の標準型後写鏡は、追従車の前照灯の照射光が鏡面反射して運転者の目に入り、運転操作上しばしば障害をきたしてきた。

しかるに、安全対策上、高級車や最新型自動車には防眩ミラーが標準装備されはじめたが、型式の異なる旧型自動車への装着は極めて困難である。

本考案は、係る点を改良したもので既設の標準型室内後写鏡に、着脱自在にして容易、確固に防眩ミラーを重合できる装置を提供し、運転者の負担を軽減せしめるものである。

即ち、本考案たる着脱式防眩ミラー装置は、ミラーハウジング4の背面中央部に基板5を回動自

在に装着し、しかもその回動量をあらかじめ設定した角度に規定して、いわゆる視界角度の切換機構を構成すると共に、該基板5に固定爪11, 11'及び、挟圧爪15, 15'を突設し、この爪を以つて、自動車にあらかじめ装備された室内後写鏡18を挟圧摺持することによつてこれをを当該後写鏡の前面に装着するものである。

以下、本考案の構成を図面に示す実施例に基づいて説明する。

符号1は前面2が低反射率で、後面3が高反射率の断面楔形の鏡体であり、ミラーハウジング4に固着されている。ハウジング4は背面中央部を樹型に突出して枠体9を形成し、その内面上部に回動軸6を横設すると共に、下側壁9'を溝状に開口してこれに操作杆8を回動自在に貫入、嵌着するものである。そして、回動軸6に基板5を回動自在に枢着するものであるが、この基板5の下縁のやや前方に弾性を有する連結軸7を横設して、これを操作杆8の上端に係合するのである。すると、基板5は回動軸6を介してハウジング4に装着されると共に、その回動角度は(実際にはハウジング4が基板5に対して相対的に回動するものであるが)操作杆8によつて規定されるのである。即ち、これを第1図、及び、第2図について説明すると、第1図は高反射率の後面3を反射面として利用する昼間時の状態に示すものであり、ハウジング4の下縁は基板5に最も接近しているのである。そこで、操作杆8を矢印に示す手前側に引けば、操作杆8は連結軸7を軸として回動するから、それに伴つて下側壁9'が手前側に押出され、ハウジング4が第2図に示す位置まで回動するのである。

ところで、上記に於いて、操作杆8は連結軸7によつて常に下方に向つて押圧されているのがよく、このように形成したときは、操作杆8は下側壁9'の内壁面10、若しくは10'に接衝して停止し、ハウジング4の回動角度を規定すると共に、

3

自動車の走行中に於ける鏡体1のビビリを防止するのである。

ところで、この固定爪11, 11'、及び、挟圧爪15, 15'は室内後写鏡18を挟圧摺持するものであるから、挟圧爪15, 15'には常に上昇しようとする力が付与されているものであつて、基板5の略中央に支柱16を突設し、更に、該基板5の両側壁の内面に案内溝12, 12'を削成して、これに可動板13を摺動自在に嵌合し、該可動板13には受腕14, 14'を突出して、該受腕14, 14'と上記支柱16との間にネジリバネ17を巻設し、支柱16を支点として受腕14, 14'を上方に押上げるものである。

以上詳述した如く、本考案はハウジング4と基板5との間に視界角度の切換機構を構成した後写鏡の基板5の上部に固定爪11, 11'を突設し、更にその下部には可動板13を介して挟圧爪15,

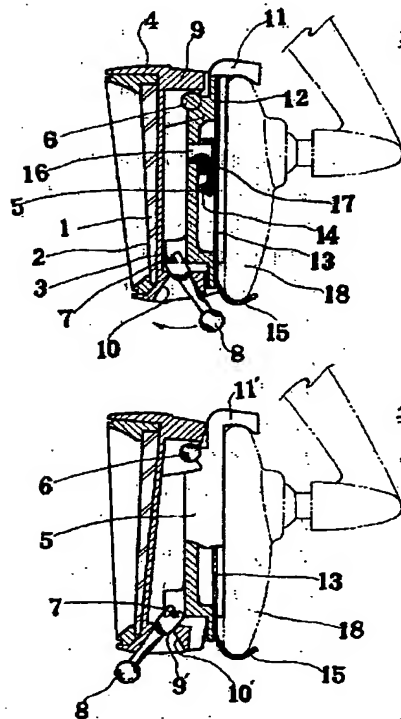
4

15'を昇降自在に、しかも常に上昇する力を付与して突出したものであり、この固定爪11, 11'、及び、挟圧爪15, 15'によつて、既設の室内後写鏡を挟圧摺持することによつてこれを該後写鏡の前面に装着するもので、着脱装作が容易で、且つ、夜間走行時に於ける眩惑光に起因する事故の発生を防止し得るものである。

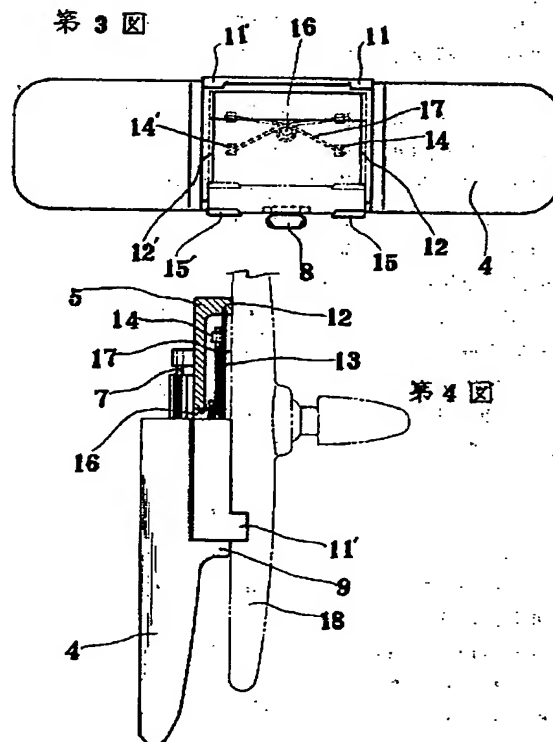
図面の簡単な説明

第1図は本考案の要部を示す縦断面図、第2図は反射率を切換えた時の要部縦断面図、第3図は一部切欠せる背面図、第4図は一部切欠せる平面図である。

尚、図中1は鏡体、4はミラーハウジング、5は基板、6は回転軸、7は連結軸、8は操作杆、9は枠体、11は固定爪、12は案内溝、13は可動板、15は挟圧爪、16は支柱、17はネジリバネ、18は室内後写鏡である。



第1図



第3図

第2図

第4図